「国語の授業を楽しく」

令和6年度
№2号
5月22日

今年度研究テーマ「『問いづくり』からはじめる単元デザイン～一緒に考え、一緒に学ぶ～」、皆さんと共に子どもたちの充実した学びに繋げていけるよう取り組んでいきましょう。

〇昨年度とのつながり

・昨年度の「単元の言語活動に向けての言語活動の設定」は継続していますので、単元目標に「C読むこと(１)オ」を設定してください。「読んで考えたことを表現する」ことを中心に単元を構成していきましょう。

・単元目標の「学びに向かう力、人間性等」には学習指導要領に記載されている各学年の目標を設定しましょう。

・評価規準を設定したら「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の時間の設定をしましょう。「記録に残す評価」の時間ですべての子どもたちがＢ評価規準に達するように指導に生かす評価をもとに支援していきましょう。

〇一緒に考え、一緒に学ぶ　ということ

中心になるのは子どもの考えや発言になってきます。ですので、授業ではできる限り子どもが考えを語る時間や場面を多くとれたらいいです。そこでのズレや悩みを全体で共有して授業を進められれば理想的です。

・授業の始めのふりかえり

→先生が前時での活動や発言をふりかえって話すこともありますが、ここで子どもたちに「どんなことを学習した？」「なにが大事だった？」「前時にうかんだ疑問はある？」と問いかけてみてください。先生の話を聞く、ではなく、子どもたちが自身たちで思い出し語る、場面をつくってみてください。

・発言には根拠や理由を添えて

→子どもたちが発言した際には、「どこからそう思ったの？」「どうしてそう思ったの？」と、根拠や理由を問い返してあげてください。発言の箇所が同じでもそこに関する考え(理由)がちがうことが多々あります。それが、ズレになり次の考えの展開につながっていきます。

・「聞くこと」の大切さ

→発言をつなげていくときの理想は「〇〇のところは同じだけど、〇〇のところは少しちがって」という風に子どもたちが発言の細分化をしながら聞けるところです。そうなると「練り合い(精査)」の時間が生まれてきます。そのためには、「〇〇さんと似ていて」「〇〇さんと違って」など前の発言に対して自分がどう思っているかを示す話型を用いることもできます。

・精査について

→始まりの学習課題に対しての考えをもったあと、それぞれがどんな考えなのかを発言していきます。これは、考えを練り上げていくための「材料集め」です。そこで集まった考えのズレから、精査をする時間へと移っていきます。その時に大切なのは、「自分はどの立場か」ではなく「誰のどの発言に納得したか」という基準をもって聞くことです。そうしないと、始めの学習課題でもった考えで止まってしまうので、その時間での深まりにはつながっていきませんね。

・言葉の中のエッセンス

→「わかった」はいったいなにをもってわかったのか、「わかりやすい」はいったい、「わかりにくい」はいったい、「むずかしい」はいったい。昨年の正木先生の話にもありましたが、あいまいな言葉のなかにあるエッセンスを細分化して、子どもたちと共有していくことで、授業で考えていくことが明確になってきます。考えをもてない子どもはそこを掴めていなくて、困っている場合があります。考え方の方向性をつけていくことでより子どもの意欲につながってきます。

これまでの先生との話や授業観察で困っていることの例になります。これから１学期の研究授業が始まります。各学年で行っている実践を共有していくことで、八尾小学校全体での歩みにつながります。研究授業を見る際の視点として上記のことを持ってもらうと討議も弾むと思います。お忙しい中ですが、よろしくお願いします。